

4 交際相手からの被害経験について

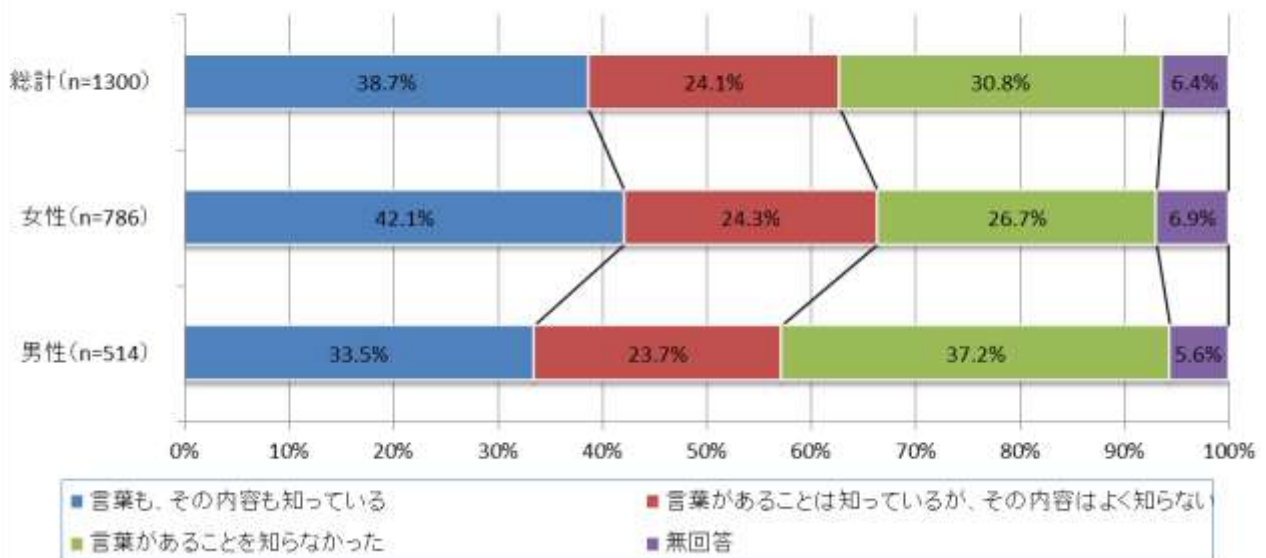
(1) 「交際相手からの暴力」(デートDV) の認知度

交際相手からの暴力について、その言葉や内容を知っているか聞いたところ、「言葉も、その内容も知っている」(38.7%)と回答した人が4割となる一方、「言葉があることを知らなかった」(30.8%)と回答した人が3割となっている。

男女別にみると、「言葉も、その内容も知っている」人が、女性で42.1%、男性で33.5%と、女性のほうが8.6ポイント上回っている。(図4-1-1)

問8 あなたは、「交際相手からの暴力」(いわゆる「デートDV」)について、知っていますか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

図4-1-1 交際相手からの暴力(デートDV)の認知度

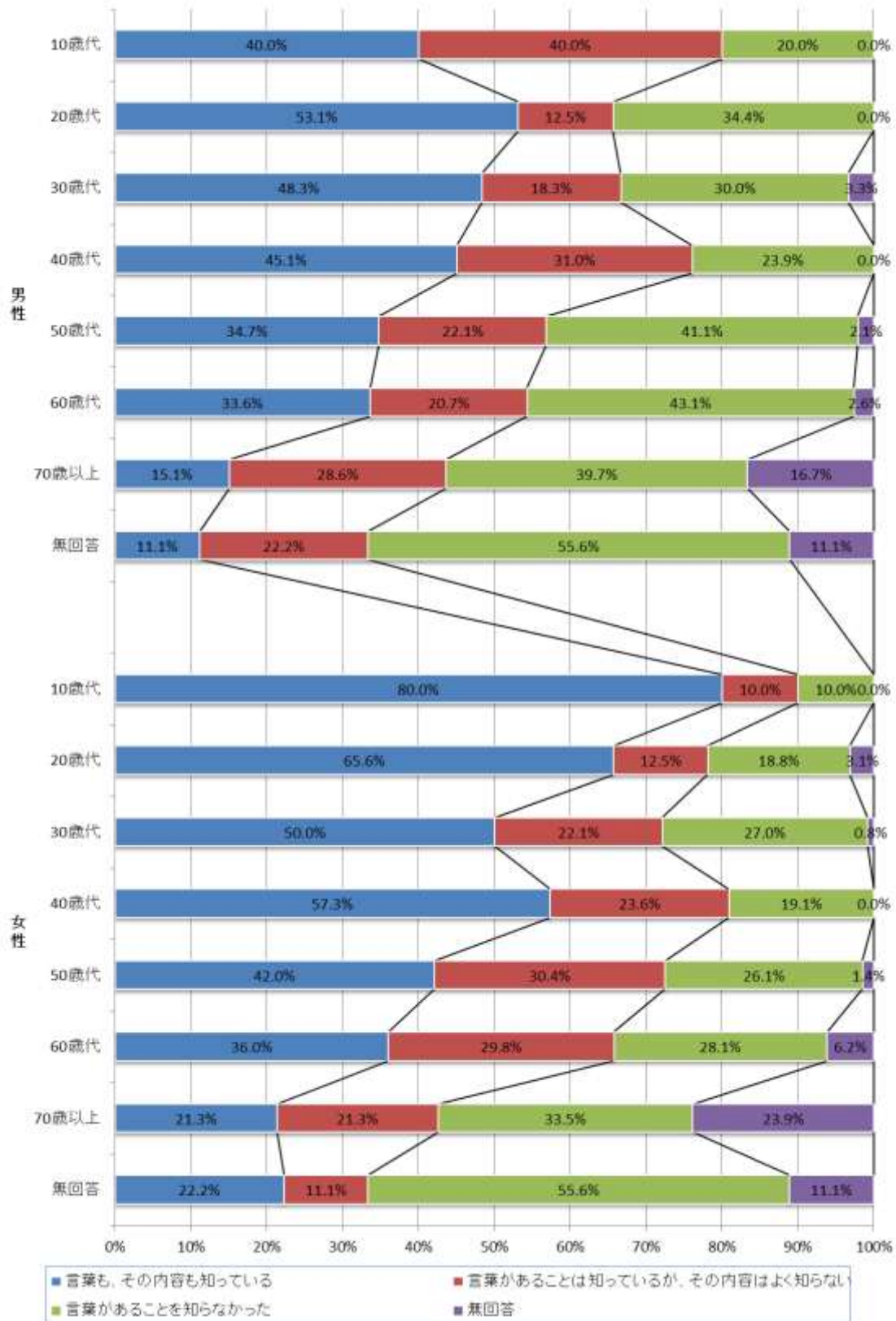


(人)

	言葉も、その内容も知っている	言葉があることは知っているが、その内容はよく知らない	言葉があることを知らなかった	無回答
総計 (n=1,300)	503	313	401	83
女性 (n=786)	331	191	210	54
男性 (n=514)	172	122	191	29

年代別にみると、「言葉も、その内容も知っている」と回答した人は、男性では20代(53.1%)が、女性では10代(80.0%)が最も多い。概ね、男女とも年代が上がるにつれて、言葉・内容の認知度が低くなっている。(図4-1-2)

図4-1-2 交際相手からの暴力(デートDV)の認知度(性・年代別)

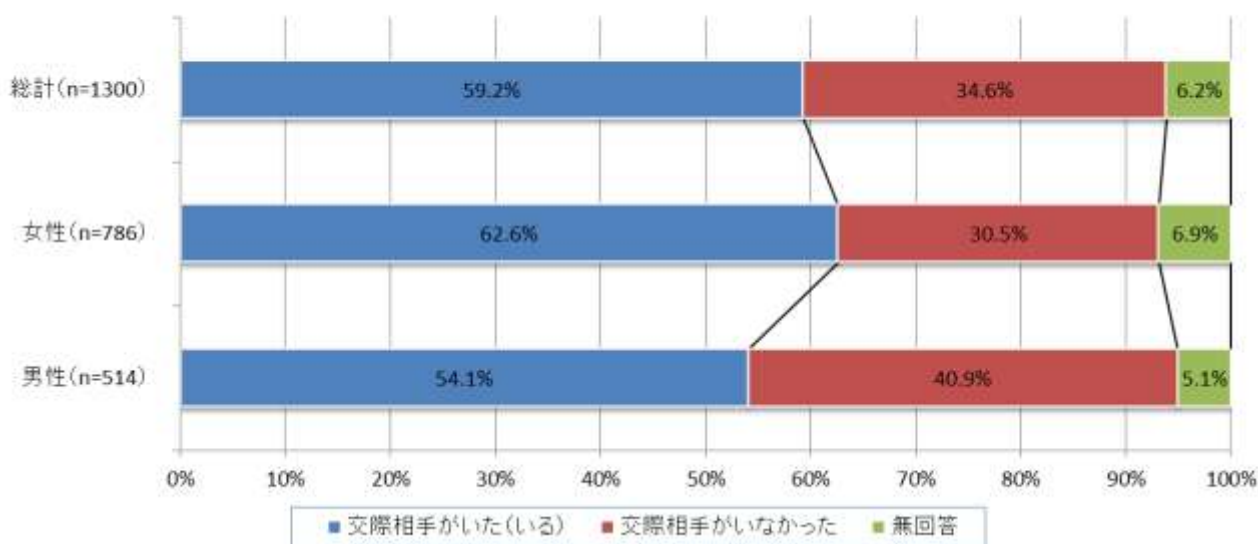


(2) 交際相手の有無

10～20歳代当時の経験について、交際相手の有無を聞いたところ、「交際相手がいた(いる)」(59.2%)は、6割であった。男女別にみると、「交際相手がいた(いる)」は女性が8.5ポイント多くなっている。(図4-2)

問9 あなたの10歳代から20歳代の経験についてお聞きします。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。
 あなたには、その当時、交際相手がありましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。
 結婚している方、結婚したことのある方については、後に配偶者となった相手以外についてお答えください。(○は1つ)

図4-2 交際相手の有無(10～20歳代の経験)



(人)

	交際相手がいた (いる)	交際相手が いなかった	無回答
総計(n=1,300)	770	450	80
女性(n=786)	492	240	54
男性(n=514)	278	210	26

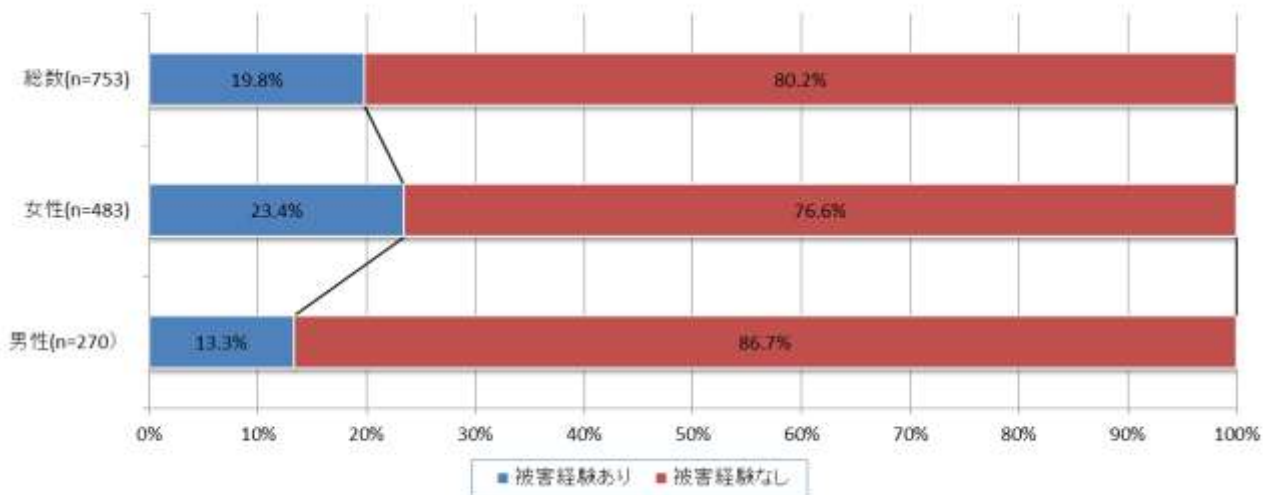
(3) 交際相手からの被害経験

10～20歳代当時に交際相手がいる(いた)と答えた人(770人中、無回答を除く753人)に、交際相手からの被害経験について聞いたところ、20種類の被害行為でひとつでも「1、2度あった」、「何度もあった」と答えた人を「被害経験あり」としてまとめた。

全体では、19.8%の人が何らかの被害経験があるとなっている。男女別では被害経験があると答えた人が男性では13.3%に対し、女性では23.4%と女性が男性を10.1ポイント上回っている。(図4-3-1)

問10 あなたは、10歳代、20歳代に交際相手から次のような行為をされたことがありますか。
 ア～トのそれぞれについて、1～3のあてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図4-3-1 交際相手からの被害経験の有無



(人)

	被害経験あり	被害経験なし
総計(n=753)	149	604
女性(n=483)	113	370
男性(n=270)	36	234

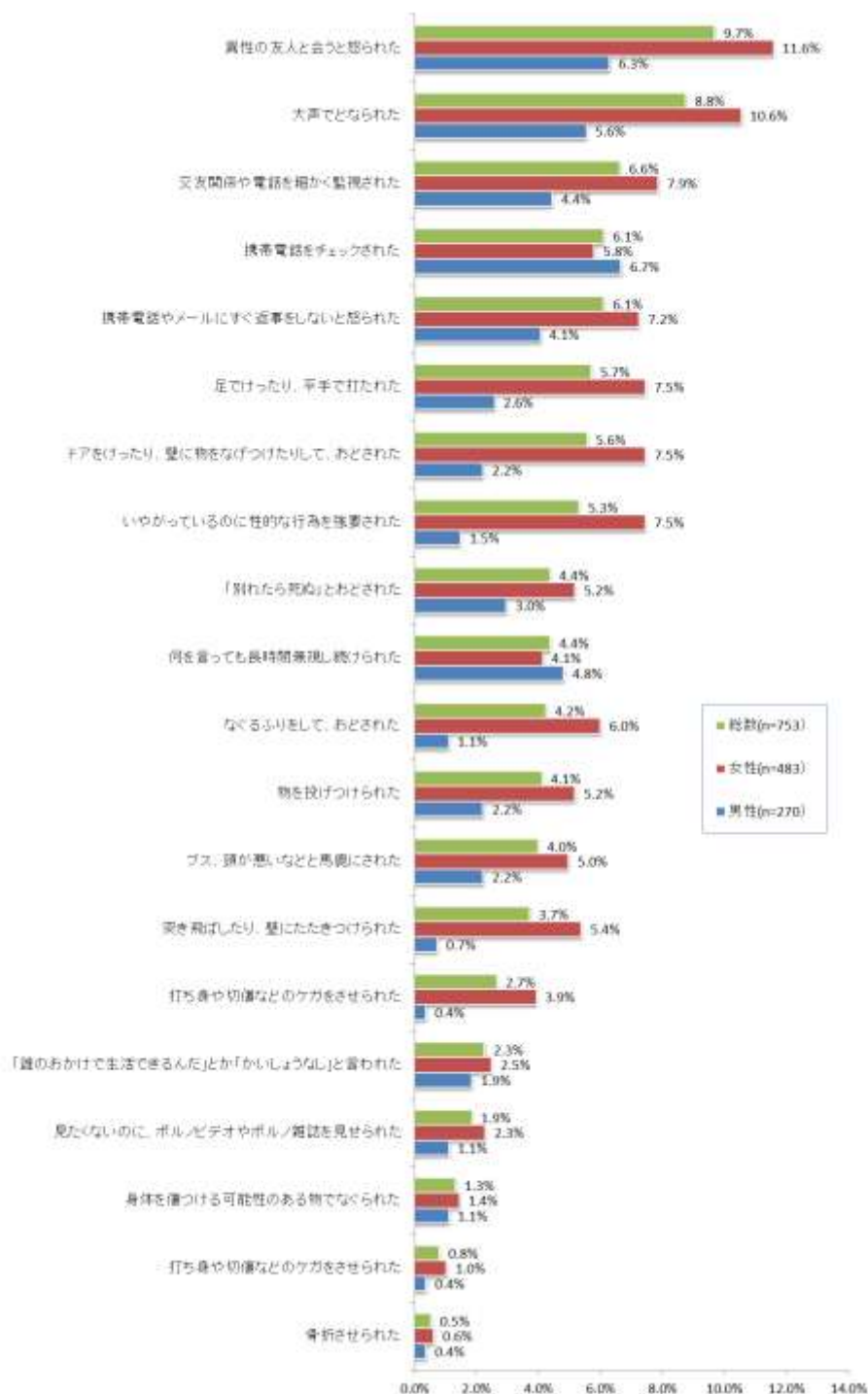
4 交際相手からの被害経験について

10～20歳代当時に交際相手があった（いる）と答えた人（753人）に、20種類の行為について、これまで被害を受けたことがあるかを聞いた。（注）

全体では「異性の友人と会うと怒られた」（9.7%）、「大声でどなられた」（8.8%）、「交友関係や電話を細かく監視された」（6.6%）の順に多い。（図 4-3-2）

問 10 あなたは、10歳代、20歳代に交際相手から次のような行為をされたことがありますか。ア～トのそれぞれについて、1～3のあてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-3-2 交際相手からの被害経験 内訳



（注） 交際相手があった（いる）人のうち、暴力が「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「いずれにもあった」人数を足した人の割合。

4 交際相手からの被害経験について

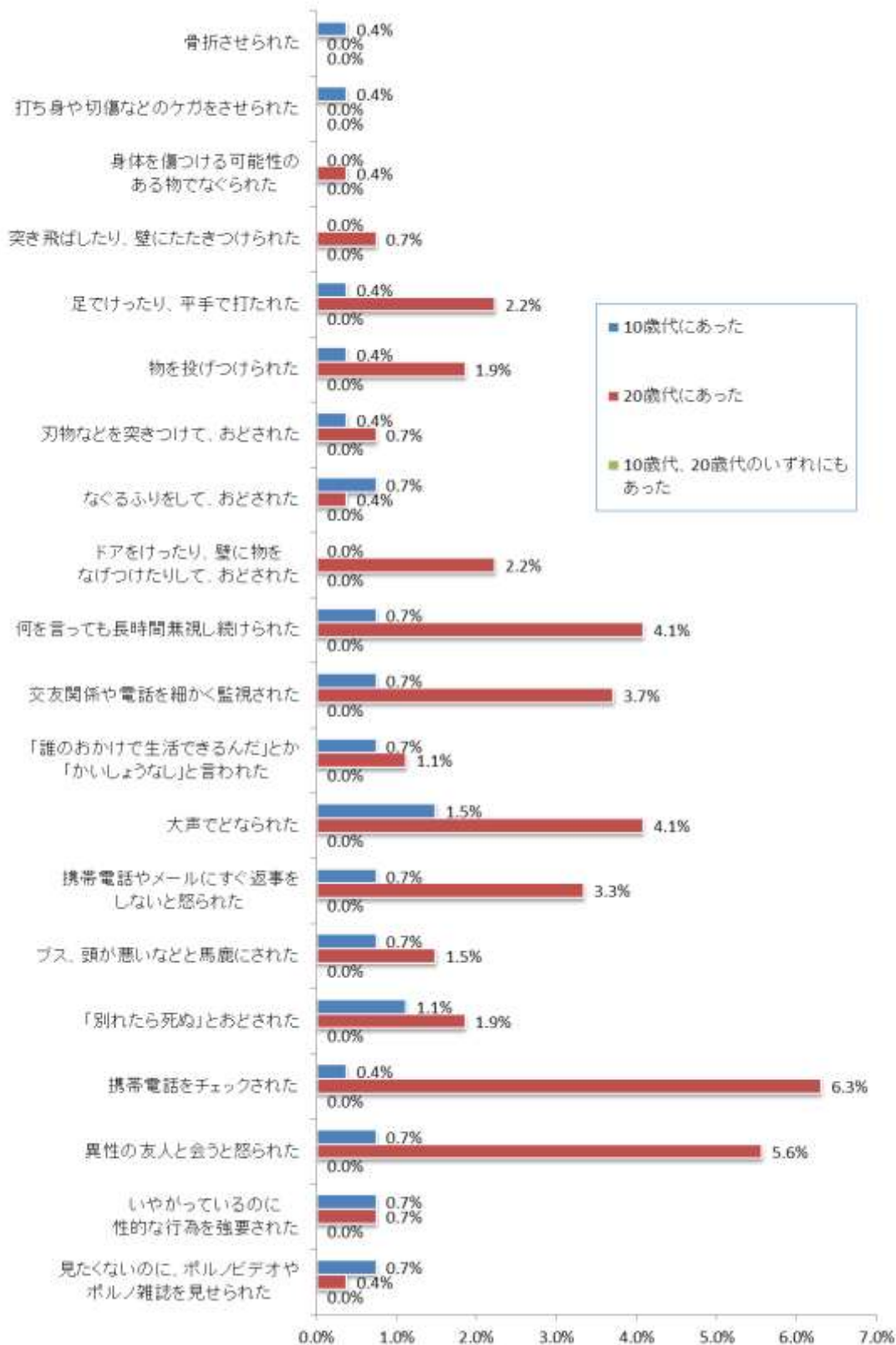
(人)

10歳代であった+20歳代であった+いずれにもあった人	全体			男性内訳				女性内訳			
	男性 (n=270)	女性 (n=483)	総数 (n=753)	10歳代に あった	20歳代に あった	いずれ にもあ った	計	10歳代に あった	20歳代に あった	いずれ にもあ った	計
骨折させられた	1	3	4	1	0	0	1	3	0	0	3
打ち身や切傷などのケガをさせられた	1	19	20	1	0	0	1	7	11	1	19
身体を傷つける可能性のある物でなぐられた	1	5	6	0	1	0	1	4	0	1	5
突き飛ばしたり、壁にたたきつけられた	2	26	28	0	2	0	2	8	16	2	26
足でけったり、平手で打たれた	7	36	43	1	6	0	7	11	22	3	36
物を投げつけられた	6	25	31	1	5	0	6	6	15	4	25
刃物などを突きつけて、おどされた	3	7	10	1	2	0	3	4	3	0	7
なぐるふりをして、おどされた	3	29	32	2	1	0	3	7	19	3	29
ドアをけったり、壁に物をなげつけたりして、おどされた	6	36	42	0	6	0	6	11	22	3	36
何を言っても長時間無視し続けられた	13	20	33	2	11	0	13	9	11	0	20
交友関係や電話を細かく監視された	12	38	50	2	10	0	12	13	22	3	38
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われた	5	12	17	2	3	0	5	4	8	0	12
大声でどなられた	15	51	66	4	11	0	15	10	33	8	51
携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒られた	11	35	46	2	9	0	11	13	20	2	35
ブス、頭が悪いなどと馬鹿にされた	6	24	30	2	4	0	6	5	17	2	24
「別れたら死ぬ」とおどされた	8	25	33	3	5	0	8	13	11	1	25
携帯電話をチェックされた	18	28	46	1	17	0	18	9	14	5	28
異性の友人と会うと怒られた	17	56	73	2	15	0	17	16	32	8	56
いやがっているのに性的な行為を強要された	4	36	40	2	2	0	4	4	30	2	36
見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	3	11	14	2	1	0	3	5	6	0	11

(男性)

男性については、「携帯電話をチェックされた」、「異性の友人と会うと怒られた」の順に多い。(図 4-3-3)

図4-3-3 交際相手からの被害経験 内訳(男性)

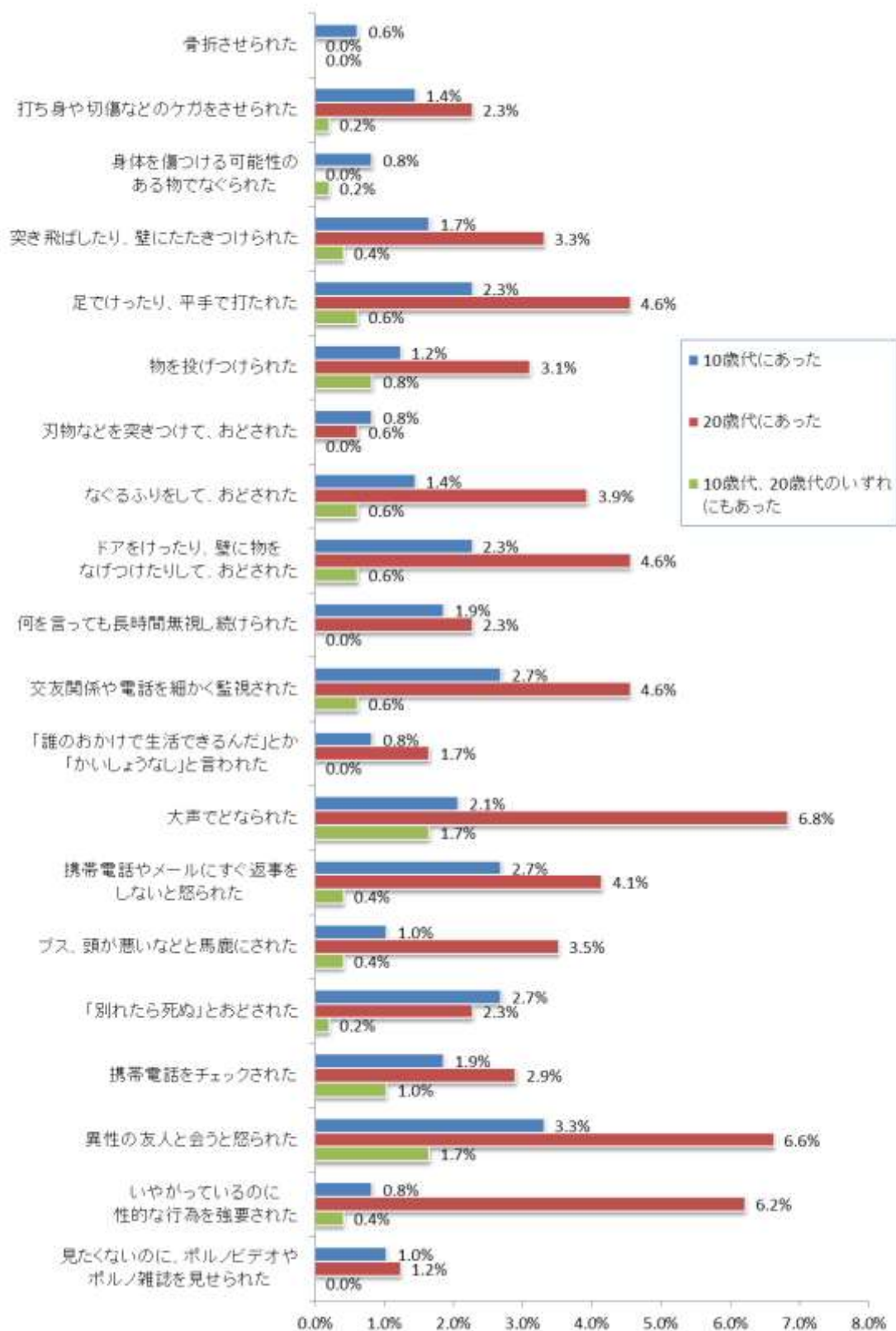


(女性)

女性については、「大声でどなられた」、「異性の友人と会うと怒られた」の順に多い。

(図 4-3-4)

図4-3-4 交際相手からの被害経験 内訳(女性)



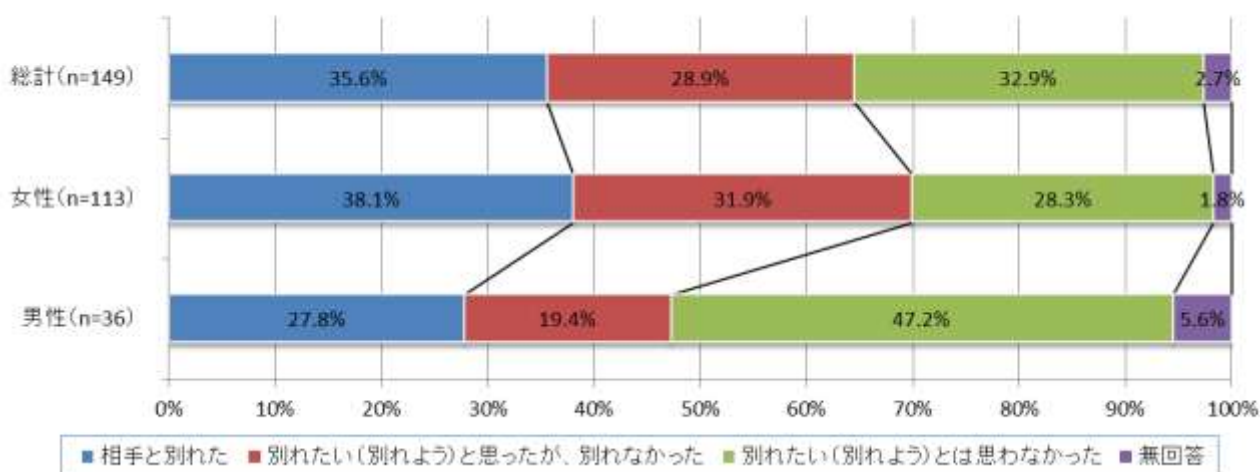
(4) 被害を受けたときの行動

10～20歳代当時の経験について、交際相手から被害を受けたと回答した人に、そのときの行動を聞いたところ、全体では「相手と別れた」(35.6%)が最も多い。

男女別で最も多いのは、女性では「相手と別れた」(38.1%)に対し、男性では「別れたい(別れよう)とは思わなかった」(47.2%)となっている。(図4-4)

問11 あなたは、交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

図4-4 交際相手から被害を受けたときの行動



(人)

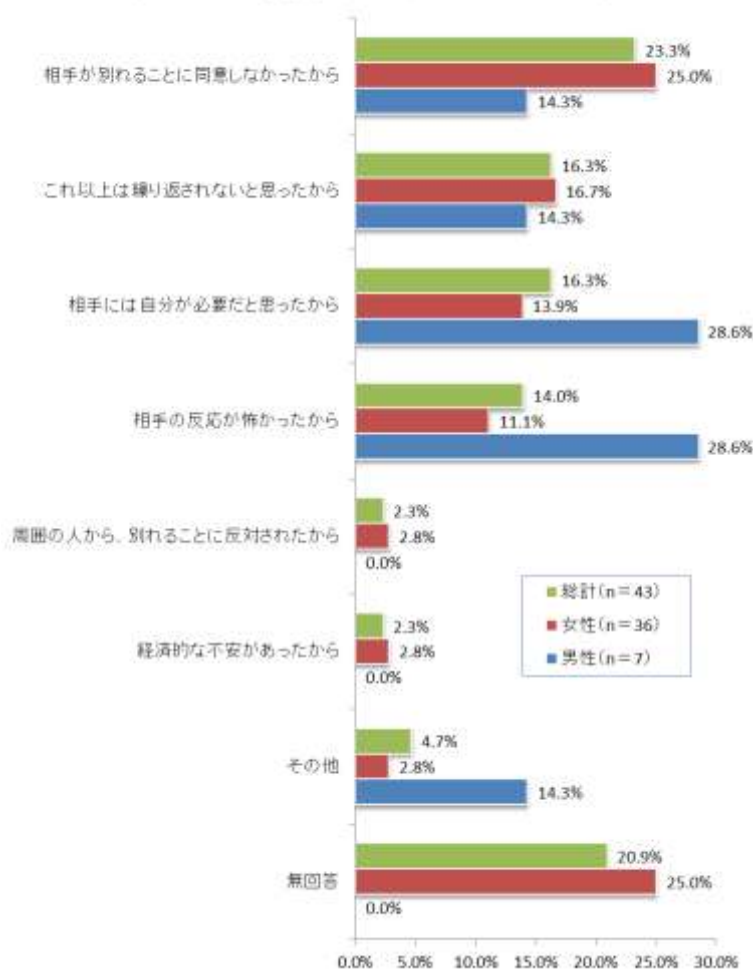
	別れた	別れたいが別れなかった	別れたいと思わない	無回答
総計(n=149)	53	43	49	4
女性(n=113)	43	36	32	2
男性(n=36)	10	7	17	2

(5) 別れなかった理由

10～20歳代当時、交際相手から被害を受けた際、「別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」と回答した人に、別れなかった最も大きな理由を聞いたところ、女性では、「相手が別れることに同意しなかったから」（25.0%）、男性では、「相手には自分が必要だと思ったから」（28.6%）及び「相手の反応が怖かったから」（28.6%）が最も多い。（図4-5）

問 12 あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。あてはまる番号に○をつけてください(○は1つ)

図4-5 交際相手と別れなかった理由



(人)

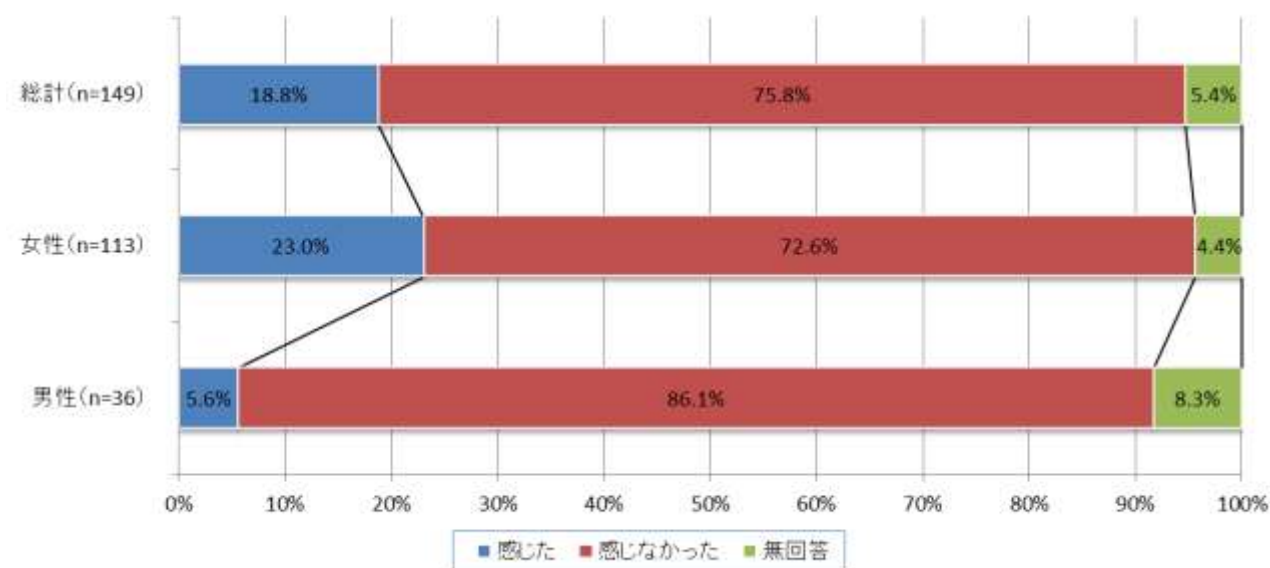
	相手の反応が怖かったから	経済的な不安があったから	相手には自分が必要だと思ったから	これ以上は繰り返されないと考えたから	周囲の人から、別れることに反対されたから	相手が別れることに同意しなかったから	その他	無回答
総計 (n=43)	6	1	7	7	1	10	2	9
女性 (n=36)	4	1	5	6	1	9	1	9
男性 (n=7)	2	0	2	1	0	1	1	0

(6) 命の危険を感じた経験

10～20歳代当時の経験について、交際相手からの暴力行為によって命の危険を感じたことがあるか聞いたところ、「感じた」と回答した人は全体で18.8%となっている。これを男女別にみると、男性5.6%、女性23.0%で、女性が男性を17.4ポイント上回っている。(図4-6)

問 13 あなたは交際相手から受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

図4-6 交際相手からの被害による命の危険を感じた経験



(人)

	感じた	感じなかった	無回答
総計 (n=149)	28	113	8
女性 (n=113)	26	82	5
男性 (n=36)	2	31	3

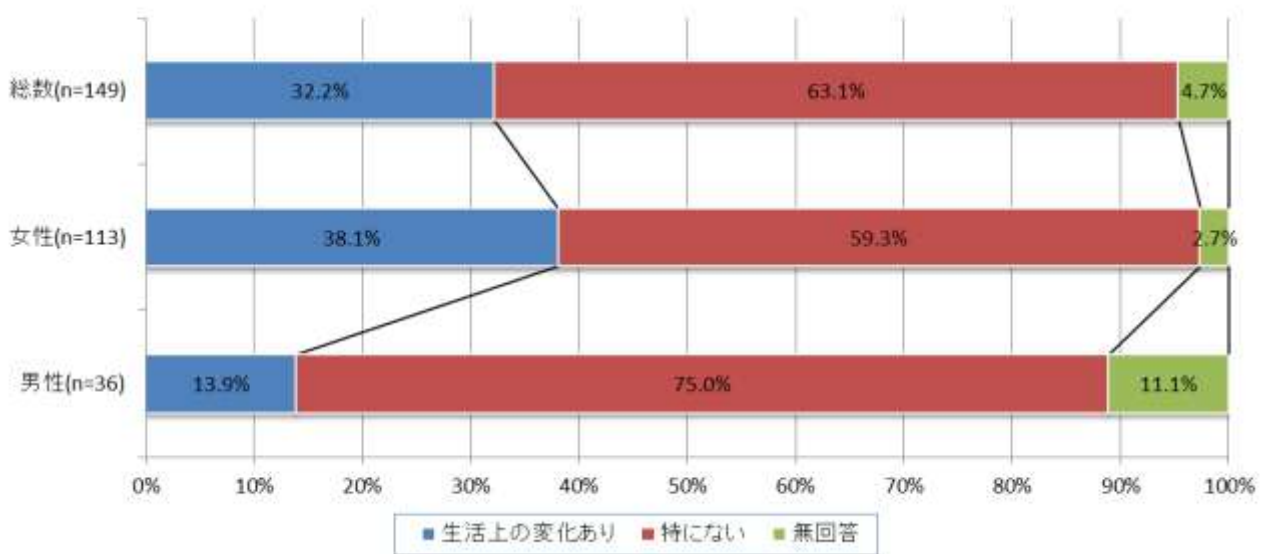
(7) 暴力による影響

交際相手からの暴力によって受けた心身や生活への影響を聞いたところ、何らかの変化があったと回答した人を「生活上の変化あり」としてまとめた。「生活上の変化あり」と回答した人は、全体で32.2%となり、3割を占める。

男女別では、「生活上の変化あり」と回答した女性(38.1%)が、男性(13.9%)を24.2ポイント上回っている。(図4-7-1)

問 14 あなたは、交際相手から受けたそのような行為によって、生活上の変化がありましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図4-7-1 交際相手からの被害による生活上の変化(全体)



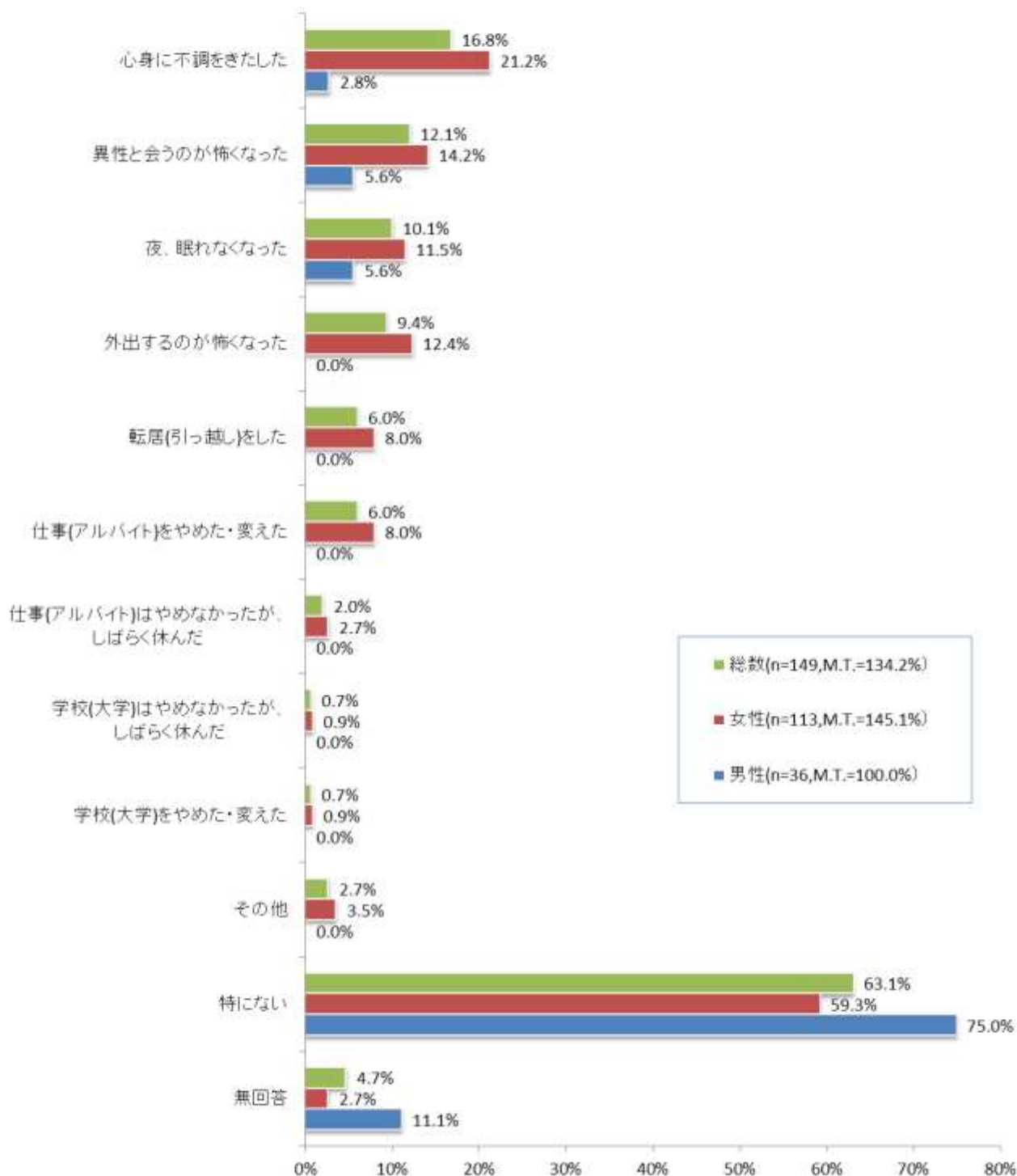
(人)

	生活上の変化あり	特にない	無回答
総数(n=149)	48	94	7
女性(n=113)	43	67	3
男性(n=36)	5	27	4

※ 問14で、「11. 特にない」と、それ以外の「心身や生活に変化」があったとする10項目の和を対比した。

生活上の変化の内容をみると、全体では「心身に不調をきたした」(16.8%)が最も多い。「特
にない」(63.1%)とする男性は 75.0%で、女性の 59.3%を 15.7 ポイント上回っている。(図
4-7-2)

図4-7-2 交際相手からの被害による
生活上の変化 内訳 (複数回答)



4 交際相手からの被害経験について

(人)

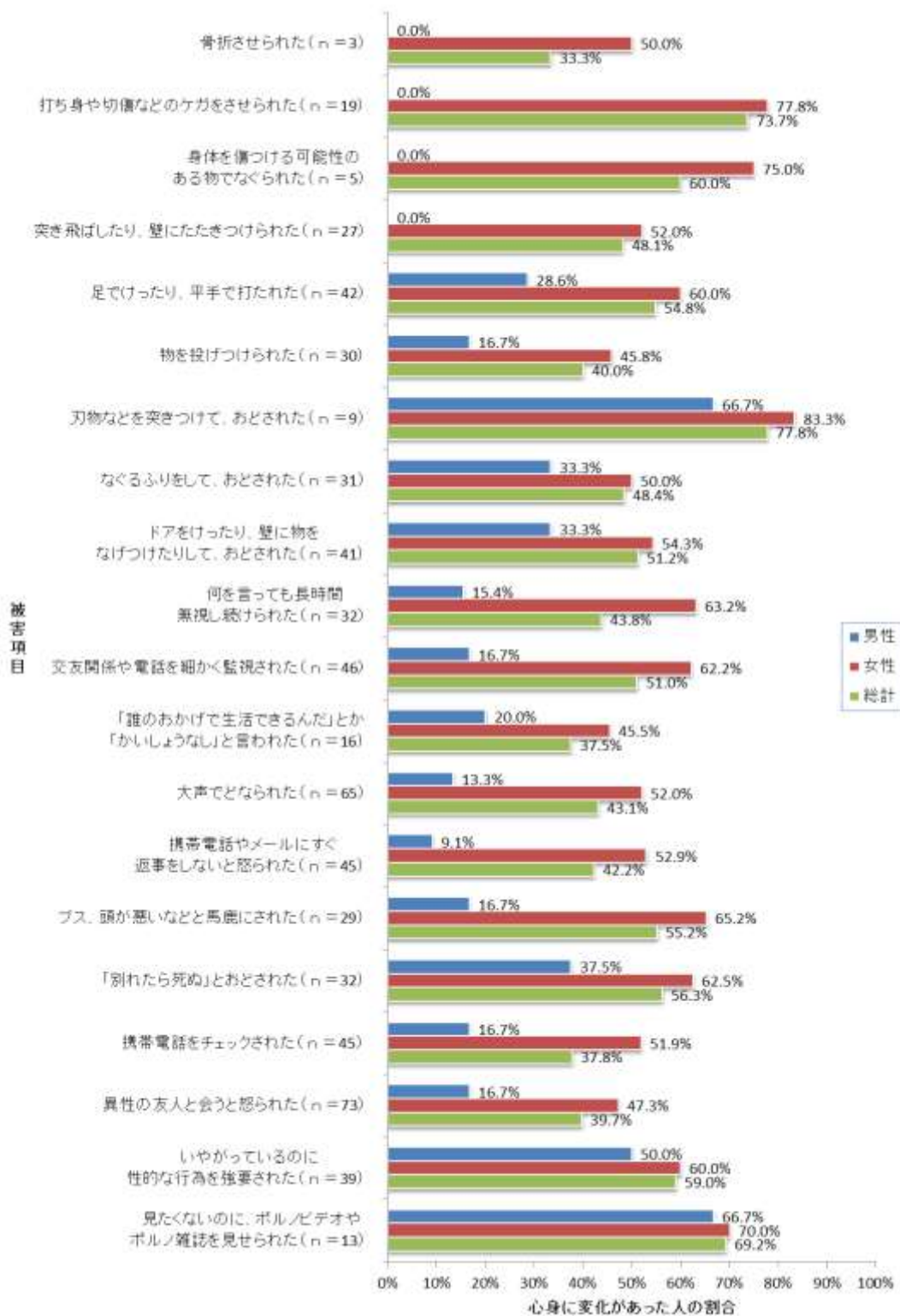
	男性 (n=36)	女性 (n=113)	総数 (n=149)
学校(大学)をやめた・変えた	0	1	1
学校(大学)はやめなかったが、しばらく休んだ	0	1	1
仕事(アルバイト)をやめた・変えた	0	9	9
仕事(アルバイト)はやめなかったが、しばらく休んだ	0	3	3
転居(引っ越し)をした	0	9	9
異性と会うのが怖くなった	2	16	18
外出するのが怖くなった	0	14	14
夜、眠れなくなった	2	13	15
心身に不調をきたした	1	24	25
その他	0	4	4
特にない	27	67	94
無回答	4	3	7

(被害項目別 生活上の変化)

交際相手から暴力を受けたことによる心身や生活への影響について、被害項目別にみると、「刃物などを突きつけて、おどされた」(77.8%)、「打ち身や切傷などのケガをさせられた」(73.7%)の順に多い。

男女別にみると、すべての行為において、女性が男性を大幅に上回っている。(図 4-7-3)

図4-7-3 交際相手からの被害項目別 心身の変化があった割合



(人)

	被害経験あり			うち生活上の変化あり		
	男性	女性	総計	男性	女性	総計
骨折させられた(n=3)	1	2	3	0	1	1
打ち身や切傷などのケガをさせられた(n=19)	1	18	19	0	14	14
身体を傷つける可能性のある物でなぐられた(n=5)	1	4	5	0	3	3
突き飛ばしたり、壁にたたきつけられた(n=27)	2	25	27	0	13	13
足でけったり、平手で打たれた(n=42)	7	35	42	2	21	23
物を投げつけられた(n=30)	6	24	30	1	11	12
刃物などを突きつけて、おどされた(n=9)	3	6	9	2	5	7
なぐるふりをして、おどされた(n=31)	3	28	31	1	14	15
ドアをけったり、壁に物をなげつけたりして、おどされた(n=41)	6	35	41	2	19	21
何を言っても長時間無視し続けられた(n=32)	13	19	32	2	12	14
交友関係や電話を細かく監視された(n=46)	12	37	49	2	23	25
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われた(n=16)	5	11	16	1	5	6
大声でどなられた(n=65)	15	50	65	2	26	28
携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒られた(n=45)	11	34	45	1	18	19
ブス、頭が悪いなどと馬鹿にされた(n=29)	6	23	29	1	15	16
「別れたら死ぬ」とおどされた(n=32)	8	24	32	3	15	18
携帯電話をチェックされた(n=45)	18	27	45	3	14	17
異性の友人と会うと怒られた(n=73)	18	55	73	3	26	29
いやがっているのに性的な行為を強要された(n=39)	4	35	39	2	21	23
見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた(n=13)	3	10	13	2	7	9

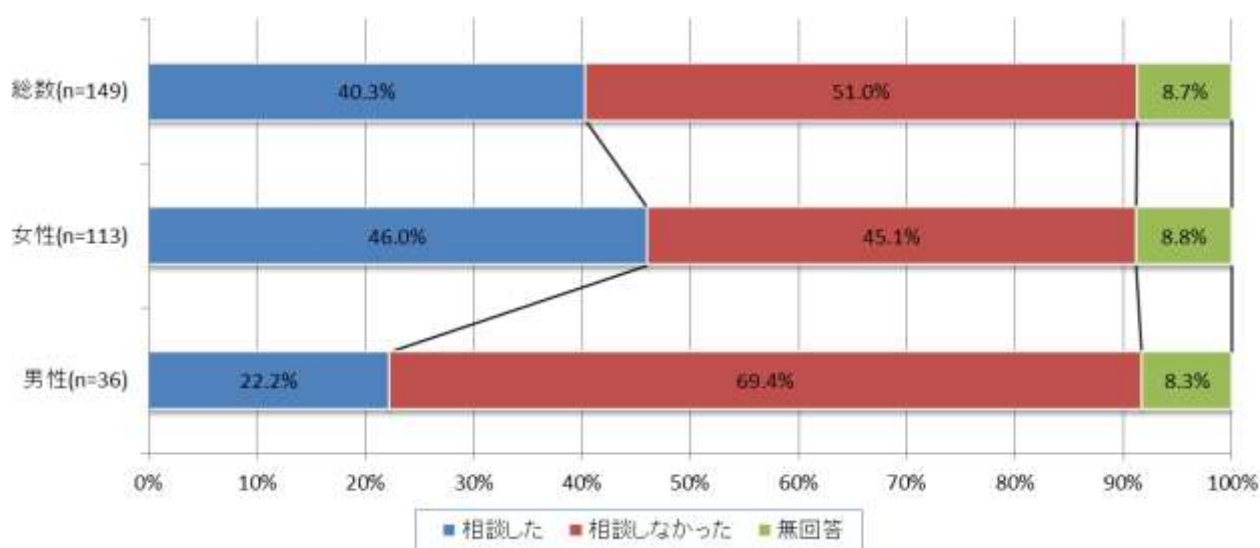
(8) 暴力に対する相談先

交際相手から受けた行為に対する相談先を聞いたところ、いずれかに相談したと回答した人を「相談した」としてまとめた。「相談した」と回答した人は、全体で40.3%に対し、「相談しなかった」人は、51.0%となっている。

男女別では、「相談した」人は、女性で46.0%、男性で22.2%と、女性のほうが23.8ポイント多い。(図4-8-1)

問15 あなたは、10歳代、20歳代に交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図4-8-1 交際相手からの暴力に対する相談の有無



(人)

	相談した	相談しなかった	無回答
総数(n=149)	60	76	13
女性(n=113)	52	51	10
男性(n=36)	8	25	3

相談先をみると、全体では「友人・知人」(34.9%)、「家族・親戚」(9.4%)の順になっている。男女とも「どこ(だれ)にも相談しなかった」が最も多く、男性69.4%、女性45.1%となっている。(図4-8-2)

図4-8-2 交際相手からの暴力に対する相談先 (複数回答)



4 交際相手からの被害経験について

(人)

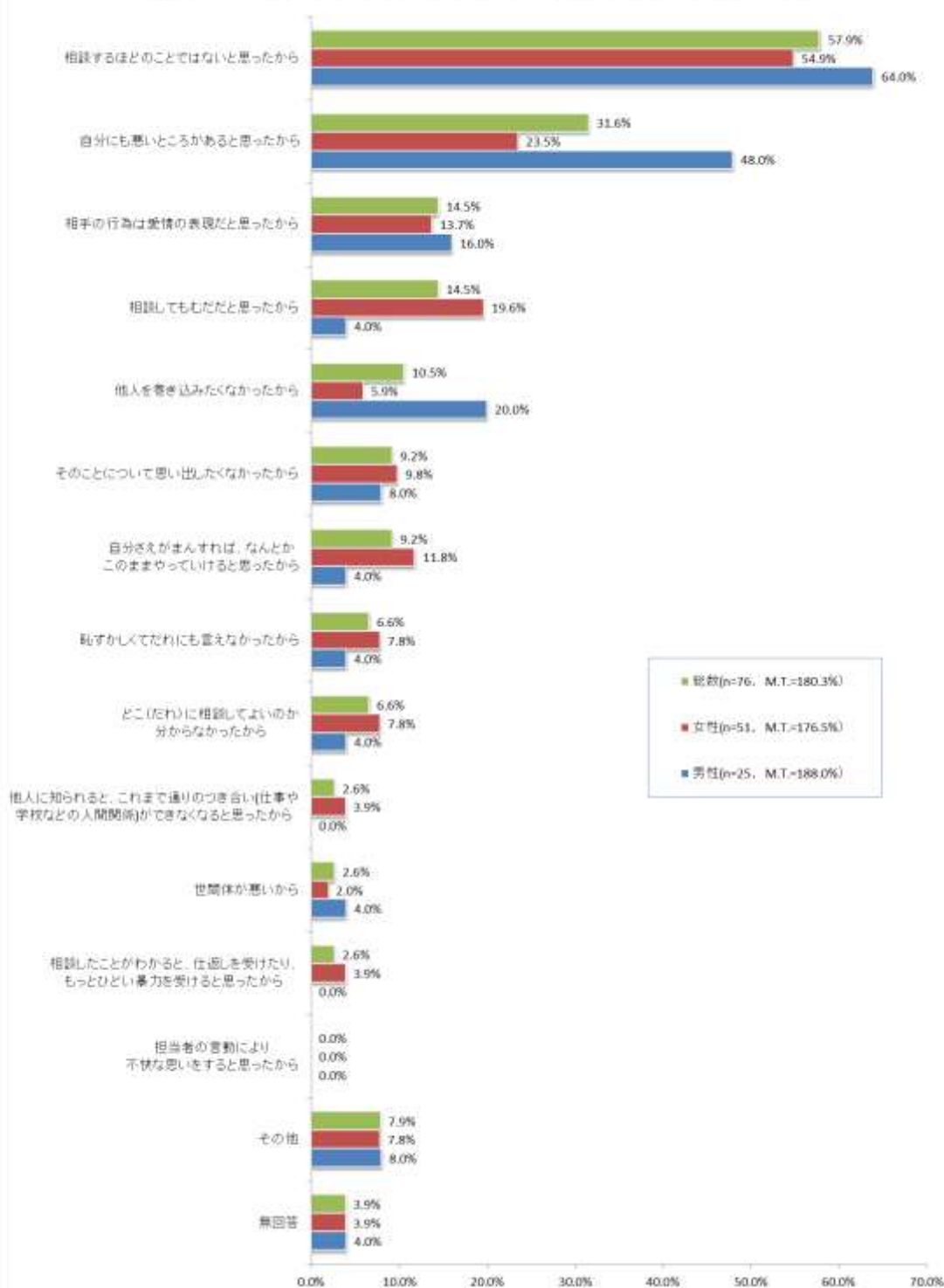
	男性(n=36)	女性(n=113)	総数(n=149)
警察に連絡・相談した	0	3	3
法務局(人権擁護委員など人権相談窓口)に相談した	0	0	0
県女性相談センター(配偶者暴力相談支援センター)に相談した	0	0	0
県健康福祉センターに相談した	0	0	0
県男女共同参画センターあざれあ、静岡市女性会館(アイセル21)などの男女共同参画のための総合的な施設(女性相談窓口)に相談した	0	0	0
市役所(福祉事務所、市民相談、保健所など)に相談した	0	1	1
裁判所に相談した	1	0	1
民間の機関(弁護士会、民間シェルター)に相談した	0	2	2
民生・児童委員に相談した	0	0	0
医療関係者(医師・看護師)に相談した	0	2	2
学校関係者(教員・養護教員・スクールカウンセラー)に相談した	0	1	1
家族や親戚に相談した	0	14	14
友人・知人に相談した	7	45	52
その他	0	1	1
どこ(だれ)にも相談しなかった	25	51	77
無回答	3	10	12

(9) 相談しなかった理由

交際相手からの被害を「どこ(だれ)にも相談しなかった人」(76人)にその理由を聞いたところ、全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」(57.9%)が最も多い。男女別にみると「自分にも悪いところがあると思ったから」が男性では48.0%、女性では23.5%と男性のほうが24.5ポイント多く、男女差の開きが最もある回答となっている。(図4-9-1)

問 16 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図4-9-1 交際相手からの被害を相談しなかった理由(複数回答)



4 交際相手からの被害経験について

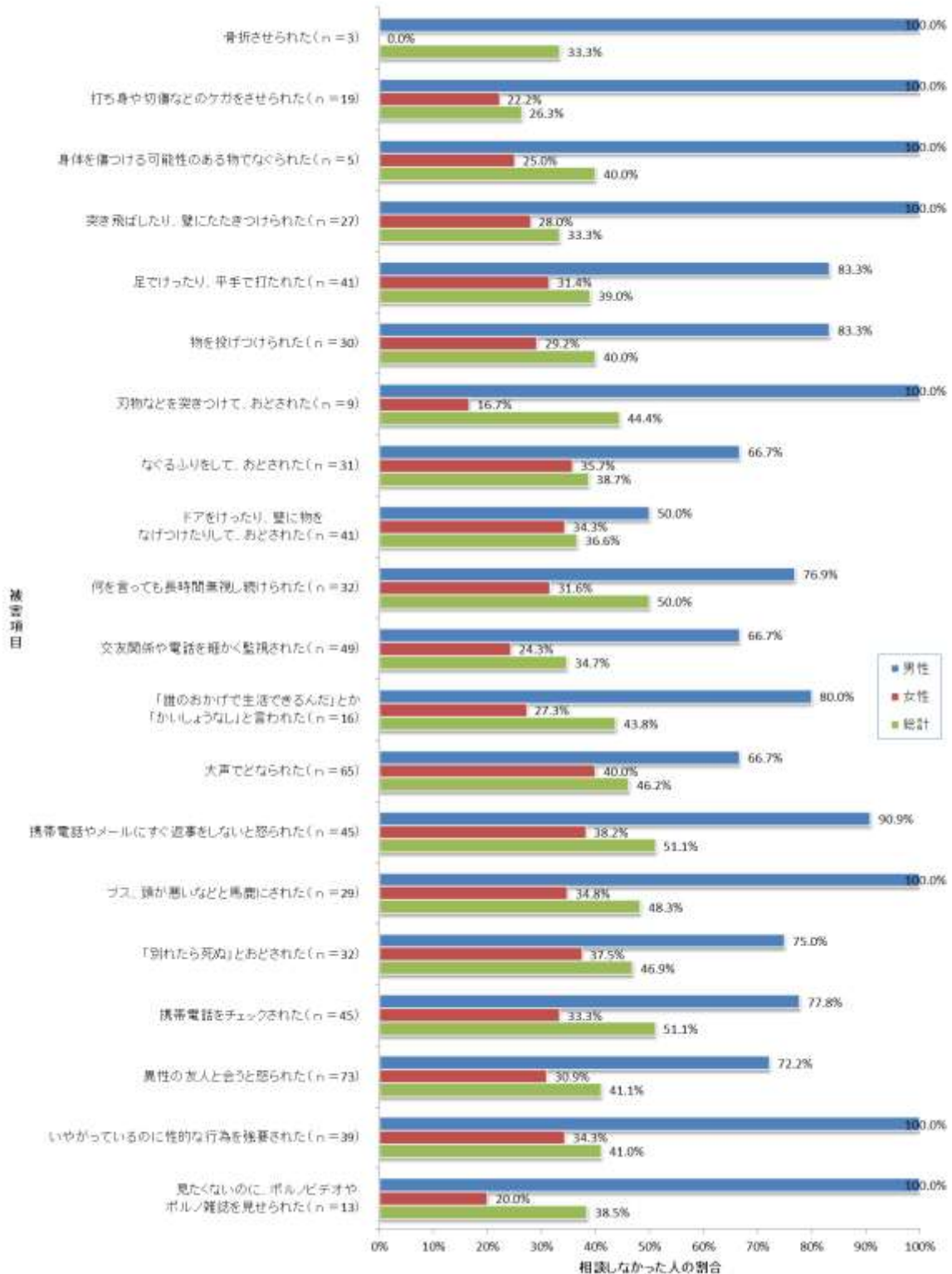
(人)

	男性(n=78)	女性(n=142)	総数(n=220)
どこ(だれ)に相談してよいのか分からなかったから	2	5	7
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	8	12	20
相談してもむだだと思ったから	7	23	30
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	0	1	1
担当者の言動により不快な思いをと思ったから	1	1	2
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	13	30	43
世間体が悪いから	7	12	19
他人を巻き込みたくなかったから	8	7	15
他人に知られると、これまで通りの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから	1	2	3
そのことについて思い出したくなかったから	2	3	5
自分にも悪いところがあると思ったから	29	43	72
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	9	8	17
相談するほどのことではないと思ったから	47	94	141
その他	5	11	16
無回答	5	3	8

(被害項目別 相談しなかった人の割合)

交際相手から暴力等の被害を受けた人のうち、相談をしたかどうかを被害項目別にみると、どの行為でも全体で4割前後の人が、相談に至らない場合が多い。男女別にみると、男性では、すべての項目に対して、半数以上の人相談していない状況にあり、項目によっては10割に及ぶ。女性では、男性に比べ、どの項目でも相談しなかった人は少ないものの、3割程の人が被害について相談をしていない。(図4-9-2)

図4-9-2 交際相手からの被害項目別 相談しなかった人の割合



4 交際相手からの被害経験について

(人)

	男性				女性			
	相談し なかった人	相談し た人	無回答	総計	相談し なかった人	相談し た人	無回答	総計
骨折させられた(n=3)	1	0	0	1	0	2	0	2
打ち身や切傷などのケガをさせられた(n=19)	1	0	0	1	4	12	2	18
身体を傷つける可能性のある物でなぐられた(n=5)	1	0	0	1	1	3	0	4
突き飛ばしたり、壁にたたきつけられた(n=27)	2	0	0	2	7	17	1	25
足でけったり、平手で打たれた(n=41)	5	1	0	6	11	20	4	35
物を投げつけられた(n=30)	5	1	0	6	7	15	2	24
刃物などを突きつけて、おどされた(n=9)	3	0	0	3	1	5	0	6
なぐるふりをして、おどされた(n=31)	2	0	1	3	10	15	3	28
ドアをけったり、壁に物をなげつけたりして、おどされた(n=41)	3	1	2	6	12	21	2	35
何を言っても長時間無視し続けられた(n=32)	10	2	1	13	6	10	3	19
交友関係や電話を細かく監視された(n=49)	8	3	1	12	9	26	2	37
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われた(n=16)	4	0	1	5	3	7	1	11
大声でどなられた(n=65)	10	3	2	15	20	28	2	50
携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒られた(n=45)	10	1	0	11	13	17	4	34
ブス、頭が悪いなどと馬鹿にされた(n=29)	6	0	0	6	8	13	2	23
「別れたら死ぬ」とおどされた(n=32)	6	2	0	8	9	13	2	24
携帯電話をチェックされた(n=45)	14	3	1	18	9	16	2	27
異性の友人と会うと怒られた(n=73)	13	4	1	18	17	33	5	55
いやがっているのに性的な行為を強要された(n=39)	4	0	0	4	12	17	6	35
見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた(n=13)	3	0	0	3	2	6	2	10